



関東大震災100年

幾多の災害を乗り越えてきた東京
備えよう、明日の防災

過去の教訓を今に活かす

もしも今起こったら、
あなたは助かりますか？

東京防災学習セミナー

関東大震災100年出前講座

2023年は関東大震災発生から100年の節目です。関東大震災では、地域の力が救助や相互扶助に大きく貢献したとの教訓が残っています。このコースでは、これらの教訓から、災害に対して都民一人ひとりの備えや地域で助け合っていくことの必要性を改めて考えます。

配信期間

令和5年 10月1日～10月31日

動画出演講師

梶秀樹さん

(筑波大学 名誉教授)

プロフィール

筑波大学 名誉教授、元日本地域安全学会会長、元日本不動産学会会長
元東京消防庁火災予防審議会副会長
1985年-1996年 筑波大学 教授（社会工学系）
1993年-1999年 国際連合地域開発センター 所長
1999年-2007年 慶應義塾大学総合政策学部 教授
2007年-2013年 東京工業大学都市地震工学センター 特任教授
2014年- 一般社団法人地域防災支援協会理事

YouTubeオンライン配信

<https://tokyo-bousai.online/20231001-8792>

※配信はYouTubeで実施します。上記URLか右のQRコードにアクセスしてください。



※テキストの記載内容がセミナーの内容と一部異なる場合がございます。ご了承ください。

主催：関前防災会

東京都（東京防災学習セミナー事務局）

事務局連絡先（03-5542-0232）

Sコース:関東大震災100年出前講座

はじめに

- (1) 関東大震災の発災から100年と言う節目の年に当たり、各聴講者の立場において「関東大震災」を振り返って頂きます。
- (2) 第1及び第2章では、東京都、内閣府(防災担当)及び気象庁等から発信される資料を元に、関東大震災が、何時、何処で、どの様に起き、当時の東京市域ではどのような惨状であったか、特に揺れや人的被害の状況、延焼火災の状況及び被災者の行動等を紹介します。そして、第3章では、100年後の“今”も変わらないとされる「地盤」「強風などの自然条件」「本震後の地震活動(余震等)」及び「助け合い」の観点からの教訓を挙げ、“首都直下地震への備え”のための具体的な事項をお話して参ります。

1. 関東大震災の概況

- (1) 1923年9月1日11時58分相模湾を中心とした地域を震源とする M7.9 の地震
- (2) 最大震度は6「烈震」(現在の震度階では7～6弱)
- (3) 震度6の地域が関東の広範囲に及ぶ
- (4) 火災による死者が約9万2千人と膨大な数
- (5) 住宅の倒壊等による死者が約1万1千人と甚大な被害
- (6) 本震発生後の24時間以内にM7.0 以上の地震(余震等)が2回発生
- (7) 本震後陸上部で震度の浅いM6.0 以上の地震(余震等)が多く発生
- (8) 非焼失地域の家々による被災者の受入や避難生活支援

2. 関東大震災における被害の特徴

(1) どのような揺れであったか

- ① 震度6「烈震」とは
- ② 東京市等における強い揺れ
- ③ 震源に最も近く震度6「烈震」の揺れに遭った町田市の住民の声
- ④ (参考)東日本大震災で震度6強の揺れに遭った仙台市民の声

(2) どのような被害が発生したのか

- ① 関東大震災における主要な被害
- ② 東京市における被害等の特徴
- ③ 人的被害の状況
 - 人的被害発生のプロセス
 - 東京市における人的被害(圧死と焼死)の状況
 - 震度と圧死被害の関連性
 - 震度と焼死被害の関連性
- ④ 火災被害の状況
 - 大規模な地震火災の状況
 - ・ 発災後の延焼拡大の状況
 - ・ 被服廠跡で起こった惨劇
 - 地震火災の発生原因(関東大震災と近年発生した大地震との違い)
- ⑤ その後の地震(余震等)による被害の状況

- 余震の発生状況
 - ・ 関東大震災における余震等の発生状況
 - ・ 近年発生した大地震における余震の発生例
- 関東大震災における余震等の特徴
- 関東大震災における余震等の影響

(3)被災住民による活動の状況

- ① 縁故先や知り合った家での寄寓
- ② 非焼失地域の被災住民による避難者支援
- ③ 避難者の組織化による避難先での炊き出し等の運営
- ④ 東京市から市外へ避難する 100 万人を支援した地域住民
- ⑤ 市民の力による消火活動(バケツ水での消火や破壊消防)

3. 関東大震災から学ぶもの(首都直下地震への備え)

(1)学びの観点

⇒100年後の“今”も変わらないもの

- 地盤条件
- 強風などの自然条件
- 大きな地震後に発生する同程度の地震(余震等)
- 助け合い(心)

(2)変わらないものから学ぶ“首都直下地震への備え”

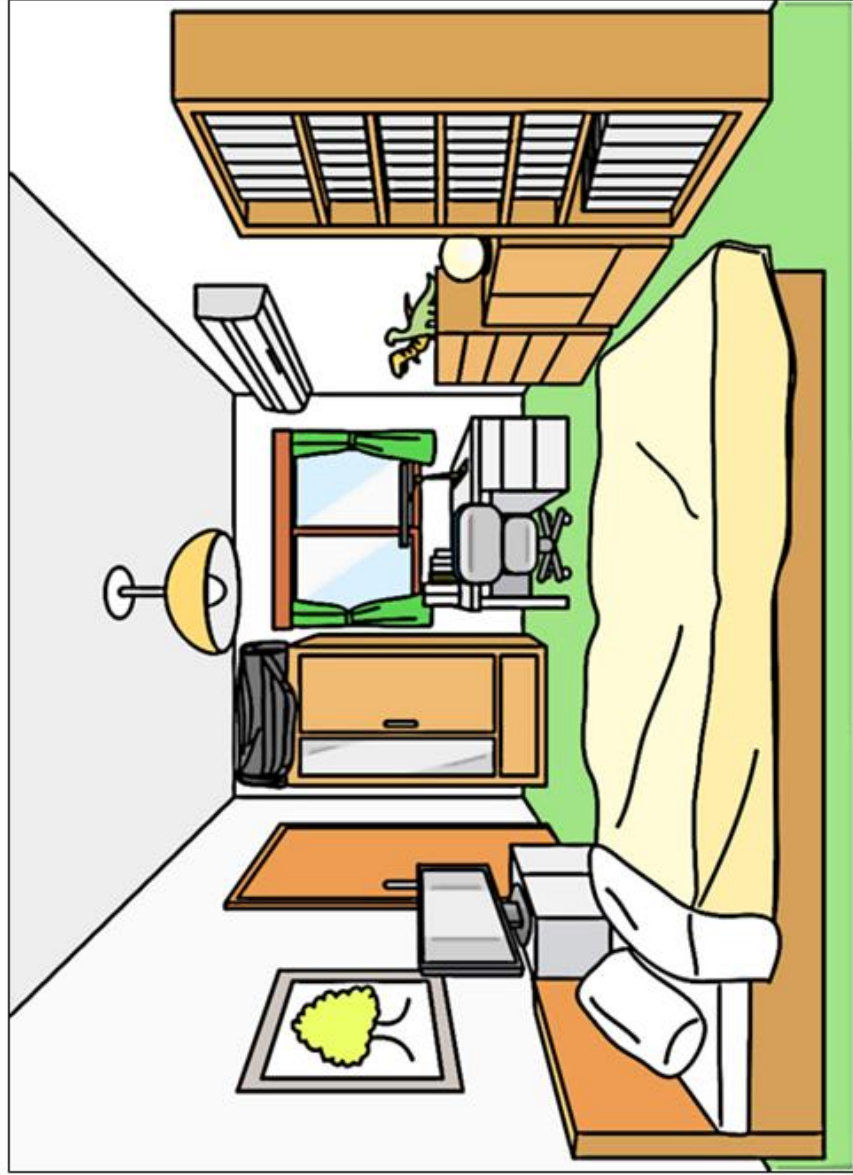
- ① 地域の特性を知る
⇒ 受講団体の地域の特性(想定震度、危険度、被害想定)
- ② 家屋の耐震性を高める
- ③ 家具類の転倒を防止する → ワークシヨップ
- ④ 出火、延焼を防ぐ
- ⑤ その後の地震活動に備える
(信頼できる情報の収集や二次被害を回避する慎重な行動)
- ⑥ 地域の防災力強化
(地域で行う安否確認は、初動対応で大切な活動)

まとめ

- (1) 本日は、関東大震災の惨状を紹介しながら100年後の“今”も変わらないものは何かという観点から、首都直下地震への備えに当たって私たちが「学べること」「学ぶべきこと」について考えて参りました。
- (2) 講義では、お住いの地域の特性を知り、家屋の耐震性を強化し、家具の転倒を防止し、出火を防止すること、そして余震等からの二次被害を回避し、万一被災した場合でも地域の助け合いにより地震災害から生き延びることが大事だということをお話しさせて頂きました。
- (3) 東京都においては災害に強い街東京を目指し、鋭意、防災対策事業が進められています。
都民の皆様一人一人が、また各家庭においても、更に地域が一体となって被災の教訓を過去に学び、「自らの命は自ら守る」「地域は地域で守る」との想いのもと、突然の地震に備えて行きたいと思えます。

【ワークシヨップ】 家具類の転倒防止について考える、振り返る

問 この寝室には、地震対策をとるべきものがいくつありますか？



1. 資料の挿図に
○印で囲んで下さい
2. 作業時間 1分